安養寺十四世
心應玄宅和尚の時之
慶長三年丁酉十月
五日寂也

羊郷村
解大山安養寺
能州大本山
直末にして開
山無著妙
融和尚なり明
徳四年癸酉八
月十二日寂也

ゆゑハ夜叉美女に化して在々を誑れハ内花に出内室に籠
動揺り在所ハ深く恐ひ居るか武士を雇て住居かり
とくに下女を人目連れ夜半に紛れて旅行き羊郷村安
養寺へかけ込こ番頭ハ頼まれハ住持ハ情有和尚にて
有るをたよりて奥州の道と旅行きより新七年
月を送るに男子成人して里見新兵衛と名のり其
も常らぬものとなり成長するに恨ひ父の子を見
まゝに出家なれ細まくを語る新兵衛聞て会
骨髄にとうし主君親の敵き越後守を伐年一大刀討

て恨を報ぜんものと常に忘る、時ハく法名山形
に思ひ切て語らひ名越後守事を企ん敵討
討為き相ちく動ハ新兵衛を尽といへとも中く討ち
ハさりられハ越後守に男子三人有りたと子なりとも計策
して親ハに思ひをかとせんと思ひくて子息ハを打果ん
去程ハ越後守子細有て山形を立退き親族引具し
加賀國へ立り中納言殿へ参上仕るに家ハも暇出され
夫より越前少將殿へ抱へられ名を豆兵と敵せし天罰ハ
やがて追出され詮方なく言野山へ登り出家せしか
後ちまゝ山形へ来りつゝ唯一筋ハ念仏三昧の身と成り